

2月1日(月曜日)  
ドル/円

## 円キャリーの巻き戻しに要注意

### 29日(金)の主な推移

#### NYダウ平均

10,067.33  
(-53.13)

#### 米長期金利 (10年債利回り)

3.5844%  
(-0.0539)

#### NY原油先物

72.89  
(-0.75)

チャート: 30分足 29日(金)朝7時 ~ 30日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

- ① 時間外の米ダウ平均株価先物が上昇に転じたことや、外貨建て投信の買いが出たことによりクロス円が買われたことをきっかけにしてドル/円も買いが入り、一時90.28円まで上昇した。
- ② 米第4四半期GDP・速報値が年率+5.7%と市場予想の+4.7%を大きく上回ったことを好感して買いが先行、ドル/円は一時90.91円を記録し、発表前の水準より約50銭の上昇を演じた。
- ③ ギリシャの信用不安や中国の金融引き締めが材料となりダウ平均が下落し、市場ではリスク許容度の低下をうけてそれまで上昇していたドル/円が売られ、ドル/円は一時90.21円まで下落とGDP発表前の水準に押し戻された。

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

## 本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.50-90.60円

先週金曜日は米第4四半期GDPが市場予想を上回り、当初はドル/円や米株式市場でも買いが先行したものの、ギリシャ問題や中国の金融引き締めといった材料が消化されないうちは、リスク許容度の高まりも期待できないことから、大きく買い進む展開にはなりにくいと見られる。

早朝にドル/円が89円台でスタートした背景として、先週末に英FSA高官が為替市場における投機的行動を規制する可能性を示したことで、円キャリートレードの巻き戻しにより円が逃避的に買われ、円高につながったと見られる。先月21日にはオバマ米大統領の金融改革案が物議を醸し、今週末にはG7財務相・中央銀行総裁会議があることから、こうした類の発言には引き続き注意が必要である。

テクニカル的には89円台が短期的にサポートとなりつつあり、引けで90.76円(1月15日の引値)を超えてくるようだと、下落圧力は低下して89円前半～91円後半をレンジにしたもみ合い局面に入る展開が予想される。

材料面では24時発表の1月ISM製造業景況指数が注目される。特に5日に米1月雇用統計を控え、その前哨戦としても注目されるため、市場の関心は高い。それ以外には引き続き市場のリスク許容度の行方が相場の勢いに影響するものとみられる。

## 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/1(月)	22:30		(米) 1月個人所得[前月比]	+0.4%	+0.3%
	22:30		(米) 1月個人支出[前月比]	+0.5%	+0.3%
	24:00	◎	(米) 1月ISM製造業景況指数	55.9	55.5

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com